アクセル・ワールド
～星の白金～

ハロルド

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ジョジョとアクセル・ワールドを拙いながらにクロスさせた結果がこちら。承太郎を始めとするスタンド使いをプレイヤーとして出しただけのものになります

目次

1話 1

1話

「ハルユキくん、メタルカラーの大御所に会いたくはないか？」

この先輩の言葉から全ては始まった。

「メタルカラーの大御所、ですか？」

「あぁ。簡単に説明すると、アバター名はプラチナ・スター。攻防共に優れた性能を誇り、さらに必殺技やアビリティも非常に強力だ。まだお互いに未熟だったとはいえ、王になる前の私では勝つ事が出来なかった程の実力者さ」

何気なく発されたその台詞に驚愕する。昔の先輩を知らない僕からしたら、領土戦などでたまに見る「黒の王」としての圧倒的実力しか分からない。他の王や災禍の鎧などといった、歴代の強敵達と比べてもなんら遜色はなく強く映る先輩が負ける姿なんて、

それこそ想像がつかない。

「でも、そんなに強いんですよね？　僕、一回もそんな名前を聞いたことないんですけど……」

「ふふ、それは当然だな。何故なら彼奴は、現実時間でここ数年間一度たりとも対戦を行っていないからな。古参の我々しか知らないだろうさ。更にレギオンにも無所属だよ」

「えぇーーー!?」

二度目の驚愕、僕の人生に於いて最早これに勝る驚きは有り得ないと断言出来る。何処かのレギオンに所属しているのならまだしも、無所属でいて対戦を受けないという凄さ。それはつまり、僕と出会った頃の先輩のように接続を遮断しローカルネットにのみ出ているという事。いや、もしかしたらそれすらもしていないのでは？　ローカルネット内にＢＢプレイヤーが他に１人もいない状況など、そうはないはず。

と、そこまで考えた所、そういえば僕が来るまでこの学校には先輩１人きりだったなという思考に至る。ならば別段、凄くは……いや、しかし先輩だって辛かったはず。な

らばその人だって、きっと。

「……あれ？　そういえば先輩、『会いたくはないか』って言いましたよね？　もしかしてリアルで知り合いの方なんですか？」

「ふふ、よく気付いたなハルユキ君。そう、プラチナ・スターはこの学校のＯＢでね。幾度も会ったし、連絡先もきちんと控えているよ」

「へぇ……なんていう方なんですか？」

「彼の名は、空条承太郎（くうじょうじょうたろう）。条と承が続く所から、ジョジョと呼ばれている男さ」

「それで……今更呼び出して、いったい何の用だ？」
「そうつれない事を言うものではないぞ、空条先輩。……今日は私の子を連れて来たのだ」

そう言った先輩と、空条先輩がチラリと僕の方を見た。僕はと言えば、思わず畏縮してしまう。

何故なら件の空条先輩はとても逞しい人で、目算だけでも１９０は越えていそうながっしりした体躯の大男だったから。威圧的な鋭い目も相成って、少し思い出したくもない事を思い出させる。

「あぁ……こいつがシルバー・クロウか？」
「そう、私の大事な子だよ。そこで空条先輩には、彼と一戦交えて頂けないかと思った次第さ」

……え。き、聞いてないですよ先輩!?